



みんなの水泳……日々徒然

パラ水泳競技規則について ～2020東京に向けて…徒然～

▶はじめに

前回は、東京2020パラリンピック大会に向けたWPS (World Para Swimming) の様々な取り組みについてお伝えしました。今回は、パラ水泳競技規則について、一般の水泳規則と異なる点を中心に説明したいと思います。

▶障がいとクラス分け

パラリンピック大会は障がいのあるアスリートの最高峰の大会である、とよく言われますが、参加することのできる障がいや程度については、競技ごとに定められています。「障がいがある」=「参加できる」ということではありません。

パラリンピックの水泳競技では、肢体不自由、視覚障がい、知的障がいのある選手で、それぞれ規定されたクラスに該当すると判断された選手が競技に参加することができます。

競技においては、例えばオリンピックの100m自由形であれば、男子と女子の2種目があるわけですが、パラリンピック競技の場合、そこにクラスという概念が加わります。障がいの種類や程度によって、競技するグループを分けられたもの、というところからわかりやすいでしょうか？

どのクラスに該当するのか判定する手順のことを「クラス分け」といいます。

パラ水泳では、肢体不自由で10クラス（平泳ぎは9クラス）、視覚障がい3クラス、知的障がい1クラスの合計14クラスが存在します。



左手に麻痺があるため、右手でスターティンググリップを握っています



両上肢欠損の選手の器具を使ったスタートの一例。介助者がタオルの端を持ち、もう一端を選手が口でくわえます

▶競技ルールについて

競技ルールについては、WPSが決定します。

オリンピックの競泳競技ルールを基本としてはいますが、障がいゆえにできないことを理由に失格にならないように考慮されています。

例えば、背泳ぎのスタートでは、ス



くわえたタオルを離すことで一気にスタート

ターティンググリップを両手で握るという基本ルールがありますが、手部や上肢の切断・欠損、麻痺などが理由でできない場合には、片手で握ることや、器具を使用してスタートすることが認められる場合があります。

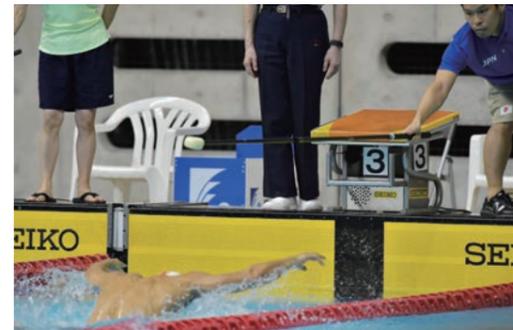
どのようなルールをどう例外的にアレンジして適用するのか、をRule Exception (RE: ルールエクセプション) と呼び、数字やアルファベットで表します (表1)。

REは、それぞれの選手について、クラス分けテストの際に付与されます。

REは、スタートリストに必ず記載され、泳法審判や審判長、スターターはこのREを参照しながら競技運営を行います。一般の競泳競技では、泳法審判はスタートリストを携行しないでジャッジしますが、パラ水泳の場合には、スタートリストを携行し、選手ごとに異なるREを参照しながらジャッジします。

その他、パラ水泳特有なルールをいくつか挙げてみます。

視覚障がいのある選手が競技する際に、選手の身体を棒などで触れることで、壁が近づいたことを知らせますが、これを「タッピング」と呼びます。合図する人はチームのコーチなどが務めますが、タッパーと呼ばれます。S11クラス (全盲) については、



ゴールやタウンの際に壁が近づいてきていることを選手に伝えるタッピング。選手は介助者が練習を重ねてタイミングを合わせます

安全の確保のため、必ずタッピングしなければならないことになっています。もし、タッパーが合図し損ねることがあれば、選手が失格になることもあります。S12、S13のクラスについては、「必ず」とはされておらず、選手側の選択でタッピングしてもよいことになっています。

スタートについては、様々な形が認められています。S1～S3クラスは、下の写真のようなフィートスタートと呼ばれる形が認められています。



フィートスタートは、選手の足をスタートの壁につけた状態で介助者が保持し、スタートと同時に手を離します

クラスに関係なく、水中からのスタートやスターティングブロックの横からのスタートも認められます。バランスや協調性に障がいのある選手については、チームスタッフがスタート合図まで支えることや、スターティングブロック上に上がる際に介助することなども認められています。



自由形の水中スタート



スターティングブロックの横から飛び込む選手の選手



チームスタッフが身体を支えた状態でスタート

プールへの入水および退水についても、介助を必要とする選手がありますが、これもクラス分けの際に確認されます。タッパーやスタート介助、入退水介助が必要な選手は、その役割を担うスタッフとともにレースに入場してことになります。

IPCの主催する主要な大会では、棄権についてもパラ水泳特有のルールがあります。棄権は医学的理由によってのみ認められ、所定の用紙に理由等を記載し、医師または理学療法士の署名を必要とします。この手続きを経ずに当該レースに出場しなかった場合には、罰金が科せられます。



入退水の介助の様子

表1 Rule Exception (RE)

A	ASSISTANCE REQUIRED (例えば入退水などの場面で) 選手が特定する介助スタッフが必要
B	BLACKENED GOGGLES 黒塗りのゴーグルが必要
E	UNABLE TO GRIP FOR BACKSTROKE START 背泳ぎのスタートでスターティンググリップを握れない
H	HEARING IMPAIRED LIGHT OR SIGNAL REQUIRED 聴覚障がいがあるのでスタートを知らせるライトまたはシグナルが必要
T	TAPPERS タッパーが必要
Y	STARTING DEVICE スターティングデバイス (プールサイドを握れない等の場合に介助用具を使う)
0	NIL 例外事項なし
1	One hand start 片手スタート: 背泳ぎ
2	Right hand touch 右手タッチ: 平泳ぎ・バタフライ
3	Left hand touch 左手タッチ: 平泳ぎ・バタフライ
4	Right hand touch with simultaneous intent to touch intent to touch with other もう一方の手と同時にタッチの意志を見せながら右手タッチ: 平泳ぎ/バタフライ
5	Left hand touch with simultaneous intent to touch intent to touch with other もう一方の手と同時にタッチの意志を見せながら左手タッチ: 平泳ぎ/バタフライ
6	Simultaneous intent to touch 同時タッチの意志を見せながらの両手タッチ: 平泳ぎ・バタフライ
7	Part of upper body must touch 上半身の一部でのタッチ
8	Right foot must turn out 右足はノーマルな平足であること: 平泳ぎ
9	Left foot must turn out 左足はノーマルな平足であること: 平泳ぎ
12	Leg Drag or Show intent to kick ノーマルなキックをしようとする意志を見せること、または下肢を引きずって泳ぐ、のどちらか: 平泳ぎ
+	+ : バタフライキック可能: 平泳ぎ



タッピングバーを持ったスタッフと一緒に入場してくる視覚障がいのある選手たち